

渡邊伍郎 ワタベゴウロウ 小説家、詩人。明治四十四年七月一日茨城県道産郡
 大賣村生れ（一九二一）。縣立下妻中學校卒業後、上京して各種の職業
 を轉ぐ。この間詩集を自費出版、また加藤朝烏主宰誌『文響』に六年
 間關はる。昭和十二年應召、南方主筆の『モリス』に爲り従軍。二十一年後
 員後は郷里に居住して詩、小説を書き、翌年第一回夏目漱石賞の
 『バルサの果樹園』（夏目伸の編『第一回夏目漱石賞當選作品集』昭和一
 十二年一月二十一日櫻菴書院所収）が當選した。その後、放送劇、童話
 なども筆を執る。

小説『幸子』（昭和二十六年十一月十日大谷書房）、童話集『ふたつ
 のぼんごん山』（昭和二十二年七月一日大谷書房）等がある。



第一回
 夏目漱石賞
 當選作品集